実践研究の現場から①

- CTを活用した 子びのイノベーション

平成21、



するとともに、児童に力を 証する学習の成果を明確に 校の研究は、①各授業で保 実践研究を進めている。同

する単元の学習のときに取 もの」「単元と密接に関係

ティブ・スタディ」を必要

支援システム「インタラク

体の復習として取り上げる のみられた単元を「単元自

つけることに主軸を置いた

一ック教育財団実践研究助 22年度)別パナソ 科の授業でICTを活用し **童数510人**) では、算数 学校(五十嵐俊子校長、児 けた東京都日野市立平山小 成 (特別研究指定校)を受

の向上の3点 確化と指導力 ポイントの明 の指導方法の 授業での教員 明確化③ICTを活用した に重点が置か れている。 上のためのICT活用法の 授業の実施②算数の学力向

に学びのイノベーションの 果から、国語と算数で課題 れらの評価データの分析結 調査の結果を分析した。こ 語)と全国学力・学習状況 たり、まずCRTテスト (2~5年生の算数・国 礎・基本で達成できないと

影したりして、視覚的にわ

今回の研究を進めるにあ に、同校では、算数の基 力向上案がまとめられた。 題のみられる単元ごとの学 題を学校全体の課題へと教 野 員間で課題を共有化し、課 としての課題へ、学年の課 この学力向上案をもと 学級ごとの課題を学年

週案を入力し授業後に評価 重点教科の算数で学力向上図る り上げるべきもの」「他の もの」の3つに分けて検 的なものとして取り上げる 単元にも関係するより普遍 る「スタディノート」を活 ネットワーク上で共有でき た成果を表現し、それを の考えやグループで追究し な単元で活用したり、自分

る。書画カメラやプロジェ たすべての教科などで、教 材や児童のノートなどを投 クタを使って、算数を含め したりする実践を行ってい れぞれの考えを分類・整理 用して、意見交換や児童そ 検証 展開の工夫もできるように び合い、考えを深める授業 面を設けて児童が互いに学 つけさせること、児童が学 いった本質的な学力を身に した内容を活用できると んだことなどを話し合う場 自ら考え、理解

なることを目指している。 単元ごとに教員は、まず ひとりの児童に さらに、一人 さを、一人ひとりの児童に める」といった姿勢の大切 が解けてもすぐに終わりに を身につけることが必須と 全教員が指導している。 しないで、再度考えて確か ないで問題に取り組む」 なる。「最後まであきらめ 日々の学習に向き合う姿勢 学力向上には、児童が

示が大切であるか、日常の ためにどのような発問や指 動を児童に課すのか、その 授業者がどのような学習活 取り組んでいる。 はICTを活用した授業で かりやすい授業づくりにも 教員に求められる指導力 ことだ。 きるようになる 授業にも応用で の学力テストの結果や日々 実践の積み重ねを、年度末 が開始された。このような 践や校内研究の場での検証 の算数について、日々の実 の2学期からは、重点教科 後に評価が入力される。こ ける。その単元の授業実施 週案を校務支援システムに の児童の行動変容などで再 入力し、時間割上に位置づ

度検証する計画だ。 「無回答をなくす」「問題

実践研究の現場から 東京都日野市立平山小学校 ②

CTを活用した

各自のペースで学習を進めながら 個別指導も適宜行える

校では、昨年度から聞パナ ソニック教育財団特別研究 東京都日野市立平山小学

この1年半あまりの実践の の実践研究を進めている。 中で、児童の算数の基礎基

定着と発表・討議で数学的 材による児童の基礎基本の 思考を深めるICTの活用

助成を受け、 診断•補充教

タラクティブ・スタディは 常に有効であると、いまで は同校の全教員に理解され に高まりがみられた。 本を定着させたいときに非 人ひとりに完全に基礎基 個別支援システムのイン

た。それが、 部の教員が主 年までは、一 ている。一昨 に使用してい

算数の校内研究授業は、▽ 教員が増えていった。 り、教員間に浸透し、次第 に授業で日常的に使用する して、初めてそのよさを知 筆書きができる図を児童 今年4月から10月までの

内研究の場で実践の様子を 昨年度から校 見たり、自ら使ってみたり 助成 発表や討論で数学的思考力高まる ミュニケーション能力の育 受け補充教材などで実践研究 ▽新しい計算を考えよう~ ~移行措置対応(5年生) 成を図る(1年生)▽合同

クティブ・スタディを活用 着を図るために、インタラ かけ算を学ぶ(2年生)の テーマで実施された。 このうち、学習内容の定 とそれを解き合う研究授業 年生のかけ算の学習研究授 動が停滞している児童には ではスタディノートが、2 つまずきの要因を聞き取っ のそばに行き、声をかけ、 机間指導の途中でその児童 たりしていた。1年生のた し算・ひき算の問題づくり 策がすでに用意されている うに、前時までの学習の積 力の向上を図った。このよ のが、同校の実践の特長の み重ねとそこから得られた に電子黒板と実物投影機を データをもとに児童の支援 活用した発表・討論活動が 行われ、児童の数学的思考

になってきている。

して思考を深められるよう 自分と友だちの考えを比較 討議の場で積極的に発言し

本の定着と数学的な思考力 自身が検証し、 学習 (3年生) ▽分けた大 する(6年生)▽わり算の 法則を発見 と基礎基本の定着をねらい 学習では、個への働きかけした3年生の「わり算」の 業ではインタラクティブ・

い、基礎基本の定着とコ よう〜自作問題を解き合 生)▽もんだいづくりをし し、思考力を深める(4年 実物投影機で発表・討論 きさの表し方~電子黒板と でモニタリングし、学習活 とした。同システムではパ 進捗状況を教員用パソコン めることができる。学習の れ自分のペースで学習を進 ソコン教室で児童がそれぞ

な意味の理解を図り、児童 ディを活用。分数の基本的 を深める活動が行われた。 習と発表・討議による思考 の児童の理解度に応じた学 スタディが使用され、個々 にインタラクティブ・スタ 4年生の授業では、前時 では、児童の思考を深め、 6年生の一筆書きの授業

個々の学習状況 な図形を変形できる算数用 をねらいに、画面上で様々 用。自分で図形を考え、試 ソフト「カブリ3D」を使 気づきを促すICTの活用

た。当日の授業 のデータに基づ ではそれをもと 確にしておい いた支援策を明 意欲が高いことで、発表や 見つけられるように4つの 出ている線の数との関係を とができた。1つの点から で考える楽しさを味わうこ てきている。授業への参加 のことで学習意欲が高まっ 同じ図形でスタート地点を の図形の性質に気づくこと 行錯誤する中で、一筆書き 変えながら確かめさせた。 児童は算数が楽しく、そ

実践研究の現場から 東京都日野市立平山小学校③

学びのイノベーション

CTを活用した

成を受け、算数の基礎基本 一ック教育財団特別研究助 平成21、22年度側パナソ と数学的な思考力の育成に 市立平山小学校では、IC 取り組んでいる東京都日野 は、学校支援者をつなぎ、 がみられている。背景に 教員全員に指導力の高まり Tを活用した 日常の授業で までの指導やその場の観察 児童に適した手立てをこれ 子の存在に気づける②その 握した上で、①困っている データの誤答分析結果を把 は、学力テストなどの評価

が「気づく力」だ。それ なるかである。その出発点

教員研修の場となっている研究協議 師力の1つは、ICTを活 授業にも応用できるように かり、日常の であるかがわ や指示が大切 にどんな発問 し、そのため 動を児童に課 用して、どのような学習活 積み重ねがあった。 貫した質の高い校内研究の メントと、昨年度からの一 研究で求められている教

方向性を示す校長のマネジ 全教員が授業指導力高めていった 指導で行われる研究協議は せられるの4つからなる。 たことをほめて自信をもた 手立てを実施できる④でき 重要になっている。 要とする単元の指導場面で これらは特に、ICTを必 東原義訓信州大学教授の が度々見られた。同教授は 東原教授が教員に尋ねる姿 導の視点の育成に継続的に 教員個々の力量の向上と指

教員に自ら成長する機会と

から考えて気づける③その

れた点のその後について、

教員が地域学

配慮していた。 主幹教諭は「平小主幹ゴレ 研究の中心にいる5人の

ンジャー」として来校者に

るのも、同校の研究協議の 運営されている。 観的な話し合いとなるよう 特色だ。校内研究授業が客 研究協議の場に参加してい コミュニティ・スクール 地域の知恵を借りて共に進 との連携は、 め、指導力向上に一層専念 習の教材化を抱え込まずに でき、カリキュラムの充実

まる週間」を実施するなど 生活を豊かにする「親子花 である同校は年4回、家庭 保護者と教員が を基盤とした同校の実践研 らは、五十嵐俊子校長のマ ネジメントによるものだ。 にもつながっている。これ コミュニティ・スクール

協力し、児童に

究は、学校支援者の協力と

ている児童は朝から授業に 習慣が身につい せている。生活 慣を身につけさ 基本的な生活習 うになり、日常の授業でも 研究開始から1年半あまり 応用できるようになってき た目的を明確にしながら適 て、教員はICTを活用 している。これと並行 み、数学的な思考力が向 数の基礎基本の定着が進 が経過。この間に児童の算 よりよい教育環境のもと、 切な発問・指示を行えるよ

校長のマネジメント が研究を加 速

回前の研究協議で課題とさ 児童の学習状況を見取るた のために行うのではなく、 団の熱意が読み取れる。数 うコメントからも、教員集 は児童のためにある」とい めに行うもの。データ分析 導は教師が自分の授業展開 教員研修の場だ。「机間指 る。明るい職場が教員間の 促し、それが教員の向上心 活発なコミュニケーションを づくりにも配慮されてい を喚起している。第三者と 力あふれる学校、教職員室 紹介されるなど、楽しく活 して同財団の則常祐史総務

企画課長が毎回研究授業と

を促している。家庭・地域 ことも伝え、保護者の協力 昨年度から学力向上を目指 る。学校便りでは、同校が した研究に取り組んでいる 学力を高めることができ き、学習を積み重ねてより 集中して取り組むことがで

(おわり)